

葛西臨海水族園の更新における既存棟の保存再生と新棟の融合による
利活用に関する陳情

令和3年3月23日 提出

東京都議会議長
石川 良一 殿

〒150-0001
東京都渋谷区神宮前 2-3-18JIA 館
電話番号 03-3408-7125
公益社団法人 日本建築家協会
会長 六鹿 正治



葛西臨海水族園の既存棟を全体のゲートとして活用することで、保存再生と新棟計画を統合し、あわせて環境教育の場として活用することにより、東京都のサステナブル・リカバリー推進の政策の一つとしていただきたい。

昨年「葛西臨海水族園の改築計画に現存建物の保存活用を加えていただきたい」との陳情が趣旨採択されたことに改めて心から感謝いたします。

その陳情において、私たちは多くの人々に愛されてきた水族園を文化的・社会的な共通資産として保存再生し、まちづくりや環境保全に活かしてほしいとの要望をいたしました。

本年はこの保存再生を東京都のサステナブル・リカバリーなどの政策の中に位置づけていただけるよう、より具体的な陳情をさせていただきます。

ご承知のように、葛西臨海地区では、日本の高度経済成長期に地盤沈下や廃棄物投棄などによって水辺が著しく汚染されていました。

1970年代、この状況を深く憂慮した東京都は、葛西沖開発事業を発議し、土地を回復し自然を取り戻すために、大量の土砂を運び、夥しい木を植えることを開始しました。

次第に木は育ち、森が生まれ、水はきれいになり干潟に生物がよみがえりました。数十年を経て、この環境は生物多様性に満ち、干潟がラムサール条約に登録されるほどになりました。まさに東京が世界に誇るべき「環境再生モデル」となりました。葛西

臨海水族園は 1989 年にその中心に海を臨んで象徴的に開園したのです。

ここに立つと、東京という大都市も、海という豊かな自然に直接つながっているのだということがまさに体感できます。

水族園のガラスドームと空の広場は水族園の入り口であるばかりでなく、東京から地球全体の海につながるシンボルでもあります。ここは東京の環境が海を通して世界の環境につながるゲートになっているともいえます。

計画されている水族園新棟も、この既存棟ゲートを入り口とすることによって、東京から世界につながる壮大な水と環境の物語につながるすることができます。

既存棟の躯体は地下約 60 メートルの固い支持層の上に約 1000 本の杭によって支えられています。この躯体を保存することは、長年かけて再生された葛西臨海公園の埋め立てられた地盤を環境的に乱さないサステナブルな方策です。

既存棟は新棟と連携し、合理的な用途分担をしながら、東京都の海と緑の環境教育等の場として未来を担う子供たちのため、そして大人たちのために使うことが可能になります。

サステナブルな東京を築いていくためには、過去のレガシーを大切にし、現在の新しいものを適切に加え、未来の東京を環境的にも文化的にもより豊かなものにしていくことが必要です。

既存棟を保存しゲートとして新棟と結合し再生させることによって、東京都が葛西臨海地区で長年にわたって築き上げてきた世界に誇るべき「環境再生モデル」をさらに一段アップグレードし、コロナ禍からの回復をより持続可能な環境形成の未来につないでいくという、東京都の「サステナブル・リカバリー」の象徴的な政策の一つにしたいと、心からお願い申し上げます。